

別記様式(第5関係)

会 議 録

会議の名称	第6回西東京市高齢者保健福祉計画検討委員会
開催日時	平成20年10月7日(火) 午後2時45分から4時05分まで
開催場所	西東京市役所保谷庁舎 防災センター6階 講座室2
出席者	(委員)北澤委員、畠山委員、平野委員、陸名委員、須加委員、五十里委員、中村委員、豊富委員、齊藤委員(欠席:阿委員、橋岡委員、織田委員) (事務局)高齢者支援課 4名 (傍聴)2名
議題	1 第5回会議録の確認について 2 次期計画における施策体系について 3 重点プロジェクトについて 4 その他
会議資料	1 高齢者保健福祉計画検討委員会第5回会議録 2 高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(第4期)施策体系(案) 3 基本理念の実現に向けた施策展開「計画素案」 4 重点プロジェクト(案) 5 高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定の枠組み(10月)
会議内容	全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録

1. 開会

2. 配布資料の確認(事務局)

3. 議題

(1) 第5回会議録について

座長代行: 第5回会議録の内容について確認をお願いしたい。

委員: 1頁の一番下。ささえあいネットワークの協力員はオレンジの腕輪しているとあるが、これは認知症サポーターである。

事務局: 2頁の委員長の発言で、またが2重になっているので、1つを削除する。

座長代行: 2箇所修正することとする。

(2) 次期計画における施策体系について

事務局：資料2・資料3について説明

座長代行：先ほどの運営協議会のご意見については、市として検討してもらうということでしょうか。それ以外のことや、先ほどの意見に追加したいことがあれば、意見ををお願いしたい。

委員：介護保険で居宅サービスの充実を図ってほしい。第三者評価の公表などインターネットでも調べられるようにしてほしい。サービス提供事業者の研修支援のところで、施設では時間が不足しており、研修の時間がとれないことが多いが、支援をお願いしたい。介助員による外出支援は要介護状態の進行防止の意味も含めて必要である。地域で支え合い安心して暮らせるまちの実現の中の多世代の交流で小中学生との交流などを実施しているが、地域に開かれた施設と言うことで良い。多様な住まいのあるまちの実現のところで、高齢者アパートやケアハウスの整備をきちんとし検討してほしい。もし、計画があるのであれば、答えてほしい。

座長代行：住宅関係の具体的な計画があれば回答をお願いしたい。

事務局：市営住宅の検討会があり、高齢者アパートを含めた検討が始まったところであるケアハウスについては、ひばりヶ丘団地の建て替えが始まっており、その中の高齢者福祉ゾーンにURが施設を建設する予定があり、軽費老人ホームなどを誘致したいとしている。

委員：7頁、日常性活圏域の設定で、在宅介護支援センターの記述があるが、地域包括ではないか。福祉サービスの手引きにある住宅防災機器やマッサージ券がないが。

事務局：在宅介護支援センターは第3期の記述であるので、見直したい。住宅防災機器やマッサージ券についても素案にないからやめると言うことではないので、記述については検討したい。

委員：就業・起業への支援とあるが、起業というのは具体的にどのようなものか。高齢者がこれから起業というのは難しいので就業が中心となると思う。シルバー人材センターのことであれば、退職した人がシルバー人材センターで満足できるのか。他でやっている事業として、OB人材マッチング協議会というところがあり、実務の経験者に登録制度を作って、中小企業を応援する事業があるので、市でもこのような登録制度を作り、困っている企業などへ派遣するといったほうが、もっと生きがいがあり今までの経験が生かされるとい

った発想のものの方が、社会参加する意義があるのではないか。スポーツ・レクリエーションで大会に参加できる人は問題が無く、大会に出ていない人をどうするかが問題である。講座の開催について、講座は聴いてだけであり、高齢者の一番の楽しみは、講座で友人に会ったあとの交流である。講義のあと、必ず班に分かれ、話し合いコミュニケーションをとることが必要である。ささえあいネットワークのメンバーは300人いるが、訪問員は多いが実際訪問してほしい人は少ない。認知症サポーター日本一のところも、数字だけを目指すのではなく、サポーターの仕組み作りをしていくことが重要である。いろんな市の会議で、同じような話し合いがされている。メンバーの3割は重複している。時間と人材の無駄であるので、本当のネットワークを作成するのであれば、1ヶ所で集中的に議論をした方がもっと内容の濃い話し合いになる。これから西東京市の課題に取り組むのであれば、きちんとしたネットワークを作ってほしい。

委員：社協で地域福祉活動計画を作成しているが、ネットワークの問題が大きいことを認識している。この取り組みを今回の計画の中できちんと取り組んでいきたい。構成員の強化と地域のネットワークの取り組みと一緒に取り組んでいきたいと考えている。

事務局：ささえあいネットワークは平成15年から始まっている。約380名登録してもらった。せっかく登録をした方が、高齢になったこともあり、登録を辞める例が増えている。今回は積極的訪問の登録制をとった。研修会を4回実施し、48名を登録。市報に見守りをしてほしい人を募集した。実際に応募があったのは8名である。1週間に1回、外からの見守りと、月1回の訪問となっている。地域包括や民生委員を通して話を進めていきたい。

委員：9頁の1 - 4 負担軽減 保険料軽減のところ、国からの情報などがあるのか。

事務局：国からの方針で、第4期計画での第4段階を2段階増やし、保険料を弾力化を行う。今まで非課税の方が課税され、負担が重くなったので激変緩和措置が設けられた。20年度はこの措置の期限が切れるため、議会に提案して継続して実施した。

委員：具体的によくわかるところと、よく分からないところがある。包括に実際に相談にくるかたは、今後要介護になったときにどうするかという相談と、

実際に介護を受けている方や介護をしている方の2種類の相談がある。地域包括でワンストップで相談できる体制のため、包括の人員の確保や、相談しやすい場所に行くとか、充実できる仕組みができればよいと思う。3頁の介護予防の中で、元気な高齢者への予防対策はどこに記述されているのか。おむつの支給のところ、寝たきりではなくてもおむつを必要とする人がいるので記述を考えてほしい。緊急ショートは、西東京市は充実しているが、緊急ショートを出た後あと困るのでそのまま1ヶ月入っているケースもある。外出支援サービスの中のはなバスを見直して、市内の福祉関係施設や包括には止まってくれるようにしてほしい。

委員：介護予防のところ、8頁 地域密着型サービスの充実のところ、小規模多機能サービスや地域密着サービスもお願いしたいし、できれば深夜のサービスも充実してほしい。地域密着型サービスは、市で独自に行えるところなので、ぜひ充実してほしい。

座長代行：今の意見は次回の運営協議会で、どのサービスを実施し、どのサービスは実施しないという検討をした方がいい。

(3) 重点プロジェクトについて

事務局：資料4について説明

委員：お願いであるが、東京老人総合研究所がバックアップして、介護予防大会を実施している。2日間で1800人を動員した。ぜひ、3年以内に西東京市も立候補して介護予防に取り組んでほしい。

委員：保健所で同じような計画を作っている。重点プロジェクトをやるのであれば、数値目標を作してほしい。今まで市で把握している市民アンケート調査結果や保健講座の調書や、策定している地域福祉計画のアンケート結果から目標値を考えてもらいたい。在宅医療も重視されてくるので、高齢で外出できなく在宅医療を受けなければならない人がいるので、例えば在宅医療に同伴してもらったこともいいのではないかと。

委員：「認知症サポーター日本一」はよい言葉であると思う。ちょっと隣近所の人のことを考えた場合は、広がっていくといいと思う。マイエイジクラブは老人クラブやミニデイ以外のたくさんの団体に広めていってもらいたい。

座長代行：この3つの重点以外に、なにかあればご意見を。権利擁護の部分と本当

に虐待や低所得で困っている人への対策を重点目標に出来ないか。個別ケースごとの仕組みをつくれば、権利が擁護されるのではないか。権利擁護センターと協力して市独自の単独事業を位置づけるべきではないか。資料などでどれが市単独でどれが国事業かがわかるようにしてほしい。

委員：市民にパブリックコメントを求める際に、権利擁護という言葉はなじみがないので、高齢者虐待の防止などにしたほうが市民にわかりやすいのではないか。

委員：社協として、市独自の事業としてどこまで何が出来るかは整理していきたい。

委員：いろんなボランティアの人がいるが、横断的にその人たちを1つにすることが重要である。意識改革が市民側にも市にも必要である。

(4) その他

事務局：次回会議は、11月4日（火曜）午後2時45分から、場所は防災センター6階講座室2で開催となる。

4. 閉会

以上